

平成27年2月

平成26年度  
全国学力・学習状況調査結果の分析と検証

音更町の学力の傾向と改善のポイント

音更町教育委員会

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査結果の分析と検証

## 1 調査・研究の目的

本調査・研究は、本町における児童生徒の学力・学習状況を把握、分析し、学習指導の改善や学習意欲の向上に資する基礎資料を提示することを目的とする。

## 2 調査・研究の方法

- (1) 本町の小・中学校の調査結果について、「平成25年度全国学力・学習状況調査 北海道版 結果報告書」(北海道教育委員会)を参考に分析・考察した。
- (2) 国語(A・B)、算数・数学(A・B)の設問別調査については「傾向」「課題」「指導のポイント」をまとめた。また、質問紙調査については、「学習に対する関心・意欲・態度」や「学習環境」等の傾向の分析を行った。

## 3 調査・研究の内容

- (1) 全国学力・学習状況調査 調査結果の概要
  - ① 音更町の傾向の把握
- (2) 全国学力・学習状況調査 設問別調査結果(国語A・B、算数・数学A・B)
  - ① 「傾向」の把握
  - ② 「課題」の分析
  - ③ 「指導のポイント」の提示
- (3) 全国学力・学習状況調査問題 児童生徒質問紙結果(傾向の把握と分析)

① 学習に対する関心・意欲・態度	② 学習時間等
③ 学習塾	④ 基本的生活習慣
⑤ 家庭・地域でのコミュニケーション等	⑥ 自尊意識・規範意識等

## 4 全国学力・学習状況調査問題について

### (1) 目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 学校における児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

### (2) 調査対象

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

### (3) 調査日

平成26年4月22日(火)

(4) 調査を実施した児童生徒数

	全 国	北海道	音更町
小学校	1, 080, 663人	42, 951人	478人
中学校	1, 017, 851人	41, 769人	492人

※ 児童生徒数は、全国学力・学習状況調査報告書（文部科学省 国立教育政策研究所）及び北海道版調査報告書（北海道教育委員会）を資料として引用する。

5 表記について

各教科や学習・生活習慣の実態等についての「傾向」や「課題」等の記述については、原則として下記のとおりとした。

1 傾向について

- (1) 全道（国）と同程度・・・・・・・・・・・・平均との差が±1ポイント未満の場合
- (2) 全道（国）とほぼ同程度（上位・下位）・・平均との差が±1～3ポイント未満の場合
- (3) 全道（国）よりやや高い（低い）・・・・平均との差が±3～5ポイント未満の場合
- (4) 全道（国）より高い（低い）・・・・・・・・平均との差が±5～7ポイント未満の場合
- (5) 全道（国）より相当高い（低い）・・・・平均との差が±7ポイント以上の場合

2 課題について

- (1) 全国平均や全道平均を下回る設問や正答率の低い設問等を取り上げ分析する。
- (2) 課題については、取り上げた設問の出題の趣旨を記述し分析する。

3 指導のポイントについて

- (1) 各教科の課題のうち、領域ごとに指導の充実を図る点について、平成26年国立教育政策研究所が作成した資料を参照して提示する。
- (2) 具体的な指導上の工夫点については、網羅的な取扱いとならないよう指導のポイントを絞って提示する。

4 質問紙について

- (1) 学習に対する関心・意欲・態度は、教科ごと（国語、算数・数学）に分けて記述する。
- (2) 全国平均や全道平均との差にかかわらず、調査結果に顕著な傾向が見られる項目について記述する。
- (3) 基本的生活習慣を中心に、注目すべき8項目の質問に絞って、各教科の正答率とのクロス集計表を作成した。分析結果については、15ページからの資料と17ページから《質問紙調査結果》に掲載した。

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査 <調査結果の概要>

## <各教科の平均正答率(%)>

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
北海道	71.8	52.9	75.8	55.2	79.4	49.9	66.0	59.4
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.5	67.4	59.8

## <音更町との平均正答率の比較> (道) : 北海道 (国) : 全国

音更町との比較	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
相当高い								
高い								
やや高い							国	
ほぼ同様(上)		国	国	国	国・道	国・道	道	国・道
音更町と同様	国	道		道				
ほぼ同様(下)	道		道					
やや低い								
低い								
相当低い								

## <音更町の傾向>

### 【小学校 国語】

- 国語A（知識）について、本町の平均正答率は全道平均とほぼ同程度（上位）で、全国平均と同程度という結果となっており、基礎的・基本的な知識・技能は定着している。
- 国語B（活用）について、本町の平均正答率は全道平均と同程度で、全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、知識・技能を活用する力については一定程度身に付いている。

### 【小学校 算数】

- 算数A（知識）について、本町の平均正答率は全道平均とほぼ同程度（上位）で、全国平均とほぼ同程度（下位）という結果となっており、基礎的・基本的な知識・技能の習得については一定程度身に付いている。
- 算数B（活用）について、本町の平均正答率は全道平均と同程度、全国平均とほぼ同程度（下位）という結果となっており、知識・技能を活用する力については一定程度身に付いている。

**【中学校 国語】**

○国語A（知識）について、本町の平均正答率は全道平均、及び全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、基礎的・基本的な知識・技能の習得についてはやや課題がある。

○国語B（活用）について、本町の平均正答率は全道平均、及び全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、知識・技能を活用する力についてはやや課題がある。

**【中学校 数学】**

○数学A（知識）について、本町の平均正答率は全道平均、及び全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、基礎的・基本的な知識・技能の習得についてはやや課題がある。

○数学B（活用）について、本町の平均正答率は全道平均、及び全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、知識・技能を活用する力についてはやや課題がある。

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査 <設問別調査結果について> 【小学校 国語】

## <1 傾 向>

- 国語A（知識）について、本町の平均正答率は全道平均とほぼ同程度（上位）で、全国平均と同程度という結果となっており、基礎的・基本的な知識・技能は定着している。
- 国語B（活用）について、本町の平均正答率は全道平均と同程度で、全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、知識・技能を活用する力については一定程度身に付いている。

## <2 課 題>

- 話すこと・聞くこと  
国語B：質問の意図を捉え、適切なものを選択することに課題がある。
- 書くこと  
国語A：情景描写を正しく理解し、適切なものを選択することに課題がある。  
国語B：二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことに課題がある。
- 読むこと  
国語B：二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉えたり、詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに課題がある。
- 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項  
国語A：漢字を正しく読んだり、国語辞典を使って言葉の意味と使い方を理解することに課題がある。  
国語B：詩の表現の特徴として適切なものを選択することに課題がある。

### <3 指導のポイント>

～平成26年度全国学力・学習状況調査 小学校国語 解説資料より～

#### ○話すこと・聞くこと

##### ①観点に基づき情報の関係付けができるように指導を充実させる。

- ・話し合いの中で出された意見と話し合いの観点を関係付けて、図に分類したり、表にまとめたりできるように、メモやノートを整理して書く習慣を付けるように指導する。

##### ②司会の役割を理解し、立場や意図を捉えながら討論を進められるように指導を充実させる。

- ・司会の具体的な話し方やまとめ方を学習する場として、モデルとなる討論会の様子を動画で視聴したり、話し合い後に良かった点や改善点を交流し合うことができるよう指導する。  
また、多くの司会を経験することも重要である。

##### ③互いの立場や意見を踏まえた上で質問ができ、意見を述べることができるように指導を充実させる。

- ・相手の話の内容を十分聞き取ることができるように、必要に応じてメモを取り、自分の考えとの共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理した上で、自分の考えをまとめるように指導する。

#### ○書くこと

##### ①物語を読み、表現方法の特徴とその効果を捉えられるように指導を充実させる。

- ・登場人物の心情について直接に描写されているものだけでなく、登場人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されているものも捉えることができるよう指導する。

##### ②交流を通して一人一人の感じ方の違いがあることに気付けるように指導を充実させる。

- ・詩を読む目的を明確にして自分の考えをまとめ、発表し合う場面を設けるなど、互いに考えたことの共通点や相違点を明らかにしながら、自分の考えを広げたり深めたりできるように指導する。

#### ○読むこと

##### ①いろいろな詩を読むことができるよう指導を充実させる。

- ・一編の詩だけでなく、同じ作者の作品や同じ題材の作品を集めて、複数の詩を比べて読むことで、多様な表現の工夫について気付くことができるよう指導する。

##### ②詩の内容や表現の工夫を捉えられるよう指導を充実させる。

- ・言葉の使い方に対する感覚を豊かにするために、比喩、反復、擬態語、擬声語などの表現や常体と敬体の違い、表記の仕方、連の構成などについて、具体的な事例を示すことができるよう指導する。

#### ○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

##### ①当該学年までに配当されている漢字を確実に習得できるよう指導を充実させる。

- ・学習した漢字を繰り返して練習したり、手紙や日記などの文章を書く際に漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義や同訓異義の漢字を区別して使えるよう指導する。
- ・国語辞典を日常的に利用する習慣を身に付けることができるよう指導する。

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査

## <設問別調査結果について> 【小学校 算数】

### <1 傾 向>

○算数A（知識）について、本町の平均正答率は全道平均とほぼ同程度（上位）で、全国平均とほぼ同程度（下位）という結果となっており、基礎的・基本的な知識・技能の習得については一定程度身に付いている。

○算数B（活用）について、本町の平均正答率は全道平均と同程度、全国平均とほぼ同程度（下位）という結果となっており、知識・技能を活用する力については一定程度身に付いている。

### <2 課 題>

#### ○数と計算

算数A：比較量の求め方（基準量×割合）に課題がある。

算数B：公倍数に着目して答を記述することに課題がある。

算数B：示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述することに課題がある。

#### ○量と測定

算数B：示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述することに課題がある。

#### ○図形

算数A：作図に用いられている図形の約束や性質を理解することに課題がある。

#### ○数量関係

算数A：減法と乗法の混合した整数の計算をすることに課題がある。

算数B：示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述することに課題がある。

算数B：繰り返される規則性を見い出し、それを基に解答を求めるに課題がある。

### <3 指導のポイント>

～平成26年度全国学力・学習状況調査 小学校算数 解説資料より～

#### ○数と計算

- ①場面から数量の関係を捉え、乗法を適切に用いることができるよう指導を充実させる。
  - ・割合（倍）が整数である場合の計算を基にして、数直線などを活用し、整数倍に当たる量や少數倍に当たる量が乗法で求められることを指導する。
- ②算数の用語を用いて日常生活の事象を的確に表現できるよう指導を充実させる。
  - ・算数で学習した用語を基に、最小公倍数などの用語を用いて表現をし直すことができることで、事象を簡単に表現できる良さを指導する。
- ③小数倍の意味を図と関連付けて理解できる指導を充実させる。
  - ・小数倍の意味の理解において、基準量、比較量、割合の関係を的確に捉えることが困難な場合が多いため、繰り返し図を用いて具体的に小数倍の大きさを理解できるように指導する。

#### ○量と測定

- ①比較する対象を明確にして説明することができるよう指導を充実させる。
  - ・数量の大小を判断した根拠を説明する際には、比較する対象を明確にして考えることが大切である。比較する対象がはっきりとしない場合に何が不足しているのかを考え、課題に応じた説明ができるよう指導する。

#### ○図形

- ①図形の約束や性質に基づいて作図できるよう指導を充実させる。
  - ・図形のどのような約束や性質を使っているのかを考えて作図できることが大切である。例えば、二等辺三角形は「二辺の長さが等しい」という特徴があり、作図に使うコンパスは「等しい長さを移すことができる」という特徴がある。これらのことを見認して作図できるよう指導する。

#### ○数量関係

- ①基礎的・基本的な計算の技能の確実な定着を図れるよう指導を充実させる。
  - ・児童の学習状況をみながら適度な繰り返し練習の機会を設け、基礎的・基本的な計算の技能の習熟や維持を図るように指導する。
- ②一つの数を他の数の積としてみると、目的に応じて数を多面的にみられるよう指導を充実させる。
  - ・24は $2 \times 12$ 、 $3 \times 8$ 、 $4 \times 6$ など乗法によって数の表現が多様にあることを確認し、どの数を用いるとより合理的、能率的に処理できるのかを話し合う活動を取り入れながら指導する。
- ③事象を観察して、そこから規則性を見いだすことができるよう指導を充実させる。
  - ・日常生活での事象や他教科などでの場面を取り上げ、その中にある数量関係を図に整理しながら規則性を見いだすことの良さを実感できるよう指導する。

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査

## <設問別調査結果について> 【中学校 国語】

### <1 傾 向>

○国語A（知識）について、本町の平均正答率は全道平均、及び全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、基礎的・基本的な知識・技能の習得についてはやや課題がある。

○国語B（活用）について、本町の平均正答率は全道平均、及び全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、知識・技能を活用する力についてはやや課題がある。

### <2 課 題>

#### ○話すこと・聞くこと

・今回の調査では、国語A問題においてのみ「話すこと・聞くこと」に関する出題があり、この領域の正答率をみると全国の平均正答率と同程度であり、特に課題としてあげる問題はなかった。

#### ○書くこと

国語A：多様な方法で材料を集めながら考えをまとめることに課題がある。

国語A：書いた文章について意見を交流し、文章を書き直すことに課題がある。

国語B：文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。

#### ○読むこと

国語A：登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することに課題がある。

国語A：文章全体と部分との関係を考え、内容を理解することに課題がある。

#### ○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

国語A：文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。

国語A：語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。

### <3 指導のポイント>

～平成26年度全国学力・学習状況調査 中学校国語 解説資料より～

#### ○話すこと・聞くこと

- ・特に課題はなかった。

#### ○書くこと

##### ①鑑賞文を書くために、集めた材料を取捨選択できるように指導を充実させる。

- ・集めた材料を効果的に使い、伝えたい事柄を適切に表現するために、対象となる作品の表現の仕方、作り手の思いや見方、作品から受けた印象や感動などに分類、整理できるように指導する。

##### ②交流の重点を明確にできるように指導を充実させる。

- ・書いた文章を交流する際に、どのようなことを重点にして交流するのかを明確にして、お互いの良い点を学び合ったり、気づいたことを助言し合ったりすることで、自分の表現に役立てることができるよう指導する。

##### ③具体的な表現と結び付けながら、表現の技法を理解できるように指導を充実させる。

- ・文学的な文章について表現の技法の意味や用法を指摘し合いながら、その効果について話し合う学習活動やいくつかの表現の技法を取り上げて自分の表現に生かす学習活動ができるように指導する。

#### ○読むこと

##### ①登場人物の言動の意味を考えて内容を理解できるように指導を充実させる。

- ・音読や朗読などの学習活動を取り入れ、作品の語り方の特徴や登場人物の心情などについて感想をもち、交流しながら内容の理解を深めていくことができるよう指導する。

##### ②文章全体と部分の関係を考え、理解に役立てることができるよう指導を充実させる。

- ・筆者が伝えたい事柄を読み手にわかつてもらうためにどのような例をあげているか、どのような順序で論を展開しているかを読み取る学習活動ができるよう指導をする。

#### ○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

##### ①漢字が正確に読み書きできるように日常的な漢字指導を充実させる。

- ・一字一字を正確に読み書きできるようになり、文脈の中で適切に使えるようになるために、既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に授業に取り入れながら指導する。

##### ②場面に即した多様な語句・語彙が理解できるように指導を充実させる。

- ・語感を磨き語彙を豊かにするために、類義語を取り上げ、使う場面や伝えたい内容を考えた上で、適切に使い分けたり、辞典を活用し、実際の話や文章の中で「ことわざ」や慣用句などを使う学習活動を取り入れながら指導する。

# 平成26年度 全国学力・学習状況調査

## <設問別調査結果について> 【中学校 数学】

### <1 傾 向>

- 数学A（知識）について、本町の平均正答率は全道平均、及び全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、基礎的・基本的な知識・技能の習得についてはやや課題がある。
- 数学B（活用）について、本町の平均正答率は全道平均、及び全国平均とほぼ同程度（下位）という結果になっており、知識・技能を活用する力についてはやや課題がある。

### <2 課 題>

#### ○数と式

- 数学A：絶対値の意味を理解することに課題がある。
- 数学A：数量の大小関係や不等式に表すことに課題がある。
- 数学B：与えられた説明の道筋を読み取り、式を適切に変形させ説明することに課題がある。

#### ○図形

- 数学A：n角形の内角の和を求める式の意味を理解することに課題がある。
- 数学B：事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することに課題がある。

#### ○関数

- 数学A：反比例の意味を理解することに課題がある。
- 数学A：与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係を判断することに課題がある。
- 数学B：グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解釈することに課題がある。

#### ○資料の活用

- 数学A；ヒストグラムにおいて中央値を理解することに課題がある。
- 数学B；不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することに課題がある。

### <3 指導のポイント>

～平成26年度全国学力・学習状況調査 中学校数学 解説資料より～

#### ○数と式

##### ①正の数と負の数の範囲で絶対値の意味を理解できるように指導を充実させる。

- ・絶対値の意味を理解できるようにするために、数直線上において原点からある数までの距離を求める場面を設定しながら指導する。

##### ②数量の大小関係を不等式に表すことができるよう指導を充実させる。

- ・ある問題において比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を使った式で表し、不等式を用いて数量の大小関係を適切に表せるように指導する。

##### ③説明の筋道を読み取ることができるよう指導を充実させる。

- ・整数の性質が成り立つ理由の説明では、結論を導く上で何を明らかにしているかについて考え、成り立たない理由の説明では、結論を満たさない例としてどのようなものをあげているかを捉える活動を取り入れながら指導する。

#### ○図 形

##### ①多角形の内角の和を表す式の意味を理解できるよう指導を充実させる。

- ・多角形の内角の和を三角形の数から導き出すために、様々な多角形を考察しながら多角形の内角の和を表す式に導いたり、その式の意味を読み取ったりする場面を設定して指導する。

##### ②日常的な事象を理想化・単純化して問題解決に数学を活用できるよう指導を充実させる。

- ・日常的な事象の問題について、数学を活用して解決できるようにするために、事象を理想化・単純化して図に表すという一連の活動を通して、問題解決できるよう指導する。

#### ○関 数

##### ①反比例の意味を負の数まで拡張した範囲で理解できるよう指導を充実させる。

- ・小学6年で学習した反比例と対比し、比例定数が正の数や負の数の反比例の式を基に、表やグラフを書き、どちらの範囲でも成り立つことを見いだす場面を設定するように指導する。

##### ②具体的な事象における数量の関係を表す式から、関数関係を読み取れるよう指導を充実させる。

- ・数量関係を表す式において、比例は商が一定、反比例は積が一定と表される関係であることを確認する場面を設定しながら指導する。

##### ③問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるよう指導を充実させる。

- ・問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について説明する場面を設定しながら指導する。

#### ○資料の活用

##### ①代表値の必要性と意味について理解できるよう指導を充実させる。

- ・目的に応じてデータを整理し、ヒストグラムに表し、データから代表値を求めるだけでなくヒストグラムから代表値を求めることができるよう指導する。

##### ②判断の理由を数学的表現を用いて的確に説明できるよう指導を充実させる。

- ・説明する事柄(B)とその根拠(A)を明確に区別し、「AであるからBである」のように簡潔にわかりやすく説明するために、確率の意味を理解し、事象に即して解釈したり比較したりできるよう指導する。

【資料】質問紙8項目と各教科正答率のクロス集計表①

No.	質問事項及び質問番号	選択肢	小学校					中学校								
			人数	国語A		国語B		算数A	算数B	人数	国語A		国語B		数学A	数学B
1	朝食を毎日食べていますか(1)	①している	413	73.95%	55.01%	77.92%	57.76%	425	79.22%	50.64%	67.24%	59.89%				
		②どちらかといえば、している	46	67.10%	40.22%	69.82%	45.99%	45	68.96%	35.06%	45.31%	37.33%				
		③あまりしていない	19	63.16%	41.05%	65.63%	44.53%	16	79.30%	45.83%	56.94%	52.50%				
		④全くしていない	2	66.67%	10.00%	44.12%	23.08%	4	78.13%	22.22%	61.81%	51.67%				
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか(2)	①している	187	76.36%	56.47%	79.68%	59.69%	151	77.38%	45.84%	63.58%	56.64%				
		②どちらかといえば、している	181	73.26%	54.42%	77.87%	57.03%	211	79.47%	52.45%	68.01%	60.66%				
		③あまりしていない	92	66.30%	45.54%	68.61%	48.66%	92	78.84%	46.74%	62.23%	53.77%				
		④全くしていない	19	64.56%	38.42%	69.97%	42.51%	36	73.52%	45.37%	58.26%	52.22%				
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか(3)	①している	269	74.47%	55.69%	77.72%	57.05%	305	78.68%	48.12%	64.83%	57.18%				
		②どちらかといえば、している	157	73.16%	51.27%	77.89%	56.98%	155	78.63%	51.47%	67.26%	60.47%				
		③あまりしていない	39	61.03%	44.62%	65.31%	48.52%	22	76.85%	46.46%	56.69%	48.48%				
		④全くしていない	15	70.67%	40.00%	69.80%	45.13%	8	59.77%	30.56%	40.97%	37.50%				
4	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたしますか(テレビゲームをする時間は除く)(11)	①4時間以上	112	69.46%	50.00%	72.22%	53.16%	92	76.02%	43.84%	54.53%	49.35%				
		②3時間以上、4時間より少ない	106	71.38%	51.79%	77.64%	54.79%	86	76.34%	46.38%	65.12%	54.81%				
		③2時間以上、3時間より少ない	108	78.15%	56.67%	79.47%	60.75%	118	77.33%	46.80%	65.21%	56.21%				
		④1時間以上、2時間より少ない	90	72.07%	51.89%	74.97%	52.82%	125	80.65%	53.78%	68.80%	62.13%				
		⑤1時間より少ない	56	75.24%	56.61%	80.78%	60.85%	60	80.94%	53.33%	71.53%	66.78%				
		⑥全く見たり、聞いたりしない	7	60.00%	41.43%	72.27%	52.75%	9	81.25%	50.62%	63.27%	57.78%				

【資料】質問紙8項目と各教科正答率のクロス集計表②

No.	質問事項及び質問番号	選択肢	小学校					中学校				
			人数	国語A	国語B	算数A	算数B	人数	国語A	国語B	数学A	数学B
5	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか(12)	①4時間以上	55	67.03%	42.36%	71.66%	47.69%	62	69.41%	36.38%	49.33%	41.29%
		②3時間以上、4時間より少ない	48	67.64%	52.29%	73.77%	50.96%	52	78.67%	47.65%	64.00%	55.38%
		③2時間以上、3時間より少ない	78	70.68%	51.28%	74.36%	56.31%	85	75.77%	46.41%	63.01%	54.35%
		④1時間以上、2時間より少ない	111	75.62%	51.80%	76.47%	55.72%	102	77.82%	47.06%	64.16%	56.01%
		⑤1時間より少ない	144	76.02%	58.82%	79.94%	61.16%	124	81.85%	53.67%	71.59%	66.51%
		⑥全くしない	43	72.56%	53.02%	78.93%	55.81%	65	83.56%	58.29%	70.90%	64.00%
6	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)(14)	①3時間以上	18	82.59%	63.89%	85.62%	69.23%	53	81.78%	55.56%	73.27%	62.01%
		②2時間以上、3時間より少ない	49	74.69%	56.53%	77.55%	55.73%	111	79.42%	47.75%	68.62%	61.50%
		③1時間以上、2時間より少ない	140	74.52%	56.14%	78.24%	57.36%	157	80.63%	51.66%	68.15%	59.66%
		④30分以上、1時間より少ない	151	72.98%	53.25%	76.35%	57.51%	88	75.85%	46.34%	57.13%	51.29%
		⑤30分より少ない	96	70.63%	49.58%	73.71%	53.13%	54	72.69%	44.03%	60.44%	55.93%
		⑥全くしない	26	60.77%	30.38%	70.36%	41.12%	26	71.39%	40.60%	46.79%	42.82%
7	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(21)	①している	116	78.51%	63.89%	85.62%	69.23%	88	81.64%	55.56%	73.27%	62.01%
		②どちらかといえば、している	152	74.04%	56.53%	77.55%	55.73%	141	80.56%	47.75%	68.62%	61.50%
		③あまりしていない	152	70.00%	56.14%	78.24%	57.36%	195	76.83%	51.66%	68.15%	59.66%
		④全くしていない	59	66.21%	53.25%	76.35%	57.51%	66	73.15%	46.34%	57.13%	51.29%
8	読書は好きですか(53)	①当てはまる	207	79.07%	61.35%	79.45%	61.09%	214	81.13%	54.72%	67.54%	60.53%
		②どちらかといえば、当てはまる	111	70.57%	52.16%	75.09%	55.16%	109	79.19%	51.17%	65.72%	57.55%
		③どちらかといえば、当てはまらない	90	68.96%	45.33%	73.07%	51.54%	88	75.46%	41.16%	61.96%	54.09%
		④当てはまらない	71	63.38%	39.01%	74.90%	48.54%	79	72.39%	38.12%	59.53%	53.08%

## 平成26年度 全国学力・学習状況調査 ＜質問紙調査結果について＞ 【児童・生徒】

### ＜国語の学習に関する関心・意欲・態度＞

- 「国語の勉強が好き」と回答した小学生の割合は56.8%で、全道・全国平均とほぼ同程度である。中学生の割合は56.5%で、全道平均よりもやや低く、全国平均とほぼ同程度である。
- 「国語の勉強は大切だと思う」と回答した小学生の割合は91.0%で、全道・全国平均と同程度である。中学生の割合は87.8%で、全道平均と同程度で、全国平均とほぼ同程度である。
- 「国語の授業の内容はよくわかる」と回答した小学生の割合は76.0%で、全道・全国平均よりやや低い。中学生の割合は72.8%で、全道・全国平均と同程度である。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した小学生の割合は87.7%で、全道・全国平均と同程度である。中学生の割合は84.7%で、全道・全国平均とほぼ同程度である。
- 「読書は好き」と回答した小学生の割合は66.2%で、全道・全国平均より低い。中学生の割合は65.9%で、全道平均より相当低く、全国平均よりやや低い。

クロス集計表では、「読書が好きですか」との問い合わせに対して、小・中学生ともに「①当てはまる」と答えた者の正答率が、「④当てはまらない」と答えた者の正答率を大きく上回っている。特に、国語Bでは、それぞれ22.3ポイント、16.6ポイントと、さらにその差が広がっている。

### ＜算数・数学の学習に関する関心・意欲・態度＞

- 「算数・数学の勉強が好き」と回答した小学生の割合は65.6%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均と同程度である。中学生の割合は64.3%で、全道・全国平均より相当高い。
- 「算数・数学の勉強は大切だと思う」と回答した小学生の割合は89.6%で、全道・全国平均とほぼ同程度である。中学生の割合は85.7%で、全道・全国平均よりやや高い。
- 「算数・数学の授業の内容はよくわかる」と回答した小学生の割合は77.7%で、全道平均と同程度で、全国平均とほぼ同程度である。中学生の割合は76.1%で、全道平均より高く、全国平均よりやや高い。
- 「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答した小学生の割合は86.9%で、全道平均と同程度で、全国平均とほぼ同程度である。中学生の割合は74.9%で、全道・全国平均よりやや高い。

クロス集計表では、「読書は好きですか」との問い合わせに対して、小・中学生ともに「①当てはまる」と答えた者の正答率が、「④当てはまらない」と答えた者の正答率を国語と同様に上回っていることから、算数・数学においても相関関係が認められる。特に小学生の算数Bでは、12.5ポイントの差がついている。

## <学習時間>

○「土・日曜日など学校が休みの日に、勉強を1時間以上する（学習塾や家庭教師含む）と回答した小学生の割合は48.0%で全道平均より低く、全国平均より相当低い。中学生の割合は67.4%で、全道平均よりやや低く、全国平均より低い。

○「自分で計画を立てて家庭学習をしている」と回答した小学生の割合は55.7%で、全道・全国平均より低い。中学生の割合は46.8%で、全道・全国平均と同程度である。

クロス集計表では、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」との問い合わせに対して、小・中学生ともに全ての教科で、「①している」と答えた者の正答率が、「④全くしていない」と答えた者の正答率が大きく上回っている。

ただ、小学生の算数Aと算数B、中学生の国語Bで、「②どちらかといえば、している」と「③あまりしていない」と答えた者の正答率の高さが逆転してるのは、「どちらか」や「あまり」の程度について捉え方の主観による違いと考えられる。

○「家で宿題をしている」と回答した小学生の割合は92.7%で全道平均とほぼ同程度で、全国平均よりやや低い。中学生の割合は88.3%で全道・全国平均と同程度である。

○「学校の授業時間以外に（月～金）、勉強を1時間以上する（学習塾や家庭教師含む）」と回答した小学生の割合は43.2%で、全道・全国平均より相当低い。中学生の割合は65.5%で、全道平均よりやや高く、全国平均とほぼ同程度である。

クロス集計表では、「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」との問い合わせに対して、小・中学生ともに全ての教科で、「①3時間以上」と答えた者の正答率が最も高かった。

ただ、小学生では算数Aで、中学生では国語A・Bで「②2時間以上、3時間より少ない」と答えた者と「③1時間以上、2時間より少ない」と答えた者の正答率の高さが逆転している。「②…」よりも「③…」と答えた人数の多さが影響したとも考えられる。

なお、小学生では「④30分以上、1時間より少ない」、中学生では「③1時間以上、2時間より少ない」と答えた人数も多かった。少なくとも、小学6年生では1時間以上、中学3年生では3時間以上の学習時間が望まれる。

## <学習塾>

○「学習塾（家庭教師含む）で勉強している」と回答した小学生の割合は39.3%で、全道平均と同程度で、全国平均より相当低い。中学生の割合は58.0%で、全道平均より相当高く、全国平均とほぼ同程度である。

## <基本的生活習慣>

○「朝食を毎日食べている」と回答した小学生の割合は95.6%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均と同程度である。中学生の割合は95.2%で、全道・全国平均と同程度である。

クロス集計表では、「毎日朝食を食べていますか」との問い合わせに対して、小・中学生ともに全ての教科で、「①している」と答えた者の正答率が、「④全くしていない」と答えた者の正答率を大きく上回っている。

なお、「④全くしていない」と答えた者の数は、小学生で2名、中学生で4名と全体の1%未満となっており、朝食を食べる習慣は身に付いていると考えてよい。

ただ、小学生の国語B、中学生の全ての教科で、「②どちらかといえば、している」と「③あまりしていない」と答えた者の正答率の高さが逆転している。選択肢の捉え方の主観による違いとともに、回答者数の少なさもその要因として考えられる。

○「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と回答した小学生の割合は76.8%で、全道・全国平均とほぼ同程度である。中学生の割合は73.9%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均と同程度である。

クロス集計表では、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」との問い合わせに対して、「①している」と答えた者の正答率が、「④全くしていない」と答えた者の正答率を、小学生では各教科で9.7~18.1ポイントと大きく上回っているが、中学生では各教科で0.5~5.3ポイントとわずかに上回っている。

ただ、中学生の「①している」と「②どちらかといえば、している」と答えた者の正答率の高さが、全ての教科で逆転しているのは、「①…」よりも「②…」と答えた者の人数が多いことによるものと考えられる。なお、全国調査の結果も同じ傾向となっている。

○「毎日同じくらいの時刻に起きている」と回答した小学生の割合は88.7%で、全道平均と同程度で、全国平均とほぼ同程度である。中学生の割合は93.8%で、全道・全国平均とほぼ同程度である。

クロス集計表では、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」との問い合わせに対して、「①している」と答えた者の正答率が、「④全くしていない」と答えた者の正答率を、小学生では各教科で、3.~15.7ポイント上回っているが、中学生では各教科で、17.5~23.8ポイントと大きく上回っている。

ただ、小学生の国語Aでは、「③あまりしていない」と「④全くしていない」と答えた者について、算数Aでは、「①している」と「②どちらかといえば、している」と答えた者についてと「③あまりしていない」と「④全くしていない」と答えた者について、正答率の高さが逆転している。

さらに、中学生の国語Bと数学A・Bともに、「①している」と「②どちらかといえば、している」と答えた者の正答率の高さが逆転している結果となった。なお、全校調査の結果でも、中学生については、毎日同じくらいの時刻に起きていることと正答率の高さとの明確な相関は出ていない。

○「1日（月～金）にテレビやビデオ・DVDを2時間以上視聴する（ゲーム除く）」と回答した小学生の割合は67.8%で、全道平均よりやや高く、全国平均より高い。中学生の割合は60.5%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均よりやや高い。

クロス集計表では、「普段（月～金曜日）、1日どれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」との問い合わせに対して、小学生では、算数A・Bで「⑤1時間より少ない」と答えた者の正答率が最も高く、中学生では、国語Aと数学A・Bともに「⑤1時間より少ない」と答えた者の正答率が最も高かった。

○「1日（月～金）にテレビゲーム（コンピュータ・携帯式ゲーム含む）を1時間以上する」と回答した小学生の割合は60.8%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均より高い。中学生の割合は61.4%で、全道平均と同程度で、全国平均より高い。

クロス集計表では、「普段（月～金曜日）、1日どれくらいの時間、テレビゲームをしますか」との問い合わせに対して、小学生では、全ての教科で「⑤1時間より少ない」と答えた者の正答率が最も高く、中学生では、国語A・Bで「⑥全くしない」と答えた者、数学A・Bで「⑤1時間より少ない」と答えた者の正答率が最も高かった。なお、全国調査の結果では、小・中学生ともに、全ての教科で「⑥全くしない」と答えた者の正答率が最も高くなっている。

#### <家庭・地域でのコミュニケーション等>

○「家の人と学校での出来事について話をしている」と回答した小学生の割合は78.1%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均と同程度である。中学生の割合は72.4%で、全道・全国平均と同程度である。

○「家の人が授業参観や学校行事にくる」と回答した小学生の割合は97.3%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均と同程度である。中学生の割合は92.0%で、全道平均より相当高く、全国平均より高い。

○「住んでいる地域の行事に参加している」と回答した小学生の割合は69.8%で、全道平均より相当高く、全国平均とほぼ同程度である。中学生の割合は37.9%で、全道平均と同程度で、全国平均よりやや低い。

○「地域や社会で起こっている出来事に关心がある」と回答した小学生の割合は59.7%で、全道平均と同程度で、全国平均よりやや低い。中学生の割合は57.3%で、全道平均よりやや高く、全国平均とほぼ同程度である。

## ＜自尊意識・規範意識等＞

- 「自分にはよいところがある」と回答した小学生の割合は68.1%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均より相当低い。中学生の割合は66.4%で、全道・全国平均と同程度である。
- 「将来の夢や希望をもっている」と回答した小学生の割合は83.5%で、全道平均と同程度で、全国平均よりやや低い。中学生の割合は71.0%で、全道・全国平均と同程度である。
- 「学校のきまり（規則）を守っている」と回答した小学生の割合は91.0%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均と同程度である。中学生の割合は92.7%で全道・全国平均と同程度である。
- 「人の気持ちを分かる人になりたいと思っている」と回答した小学生の割合は93.5%、中学生の割合は95.5%で、どちらも全道・全国平均と同程度である。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した小学生の割合は94.3%で、全道・全国平均と同程度である。中学生の割合は92.8%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均と同程度である。
- 「人の役に立つ人になりたいと思っている」と回答した小学生の割合は92.7%で、全道平均とほぼ同程度で、全国平均と同程度である。中学生の割合は94.1%で、全道・全国平均と同程度である。

## 【下位層の児童・生徒への指導のポイントとして】

※参考文献「オール北海道で目指す目標」第1期～第5期

※この資料は、昨年度の資料に第5期の部分を新しく加え、算数・数学から国語の指導にポイントを変更して掲載しました。

### 1 漢字や計算問題などの基礎学力を定着させるために

人間の記憶には、学習した直後から忘却が急速に進み、次第におだやかになり、それ以降一定の水準を保つという特性があります。このことから、効果的な学習方法として「一定の水準のところまで落ちてしまわない前にもう一度見直す」、「一度に繰り返し覚えるより何度も分けて覚えた方が効率は良い」などと言われています。

例えば、学習した漢字についても、学習したときは覚えていても活用しなければどんどん忘れてしまいます。したがって、忘れてしまう前に復習する機会を設けることや年間を通して計画的に学習を積み重ねていくことが大切になります。

そこで、例えば、次のような方法を工夫するなど、学校全体で組織的・計画的に定着を図る取組を進めることができます。

- ①授業時間において、5～10分程度の短時間で漢字の学習や定着問題などを取り組むミニテストの時間を年間通じて継続的に位置づける。
- ②授業時間以外において、朝の基礎学習の時間や基礎・基本タイムなどを毎日又は毎週継続的に位置づける。
- ③忘れてしまう前に繰り返し学習をする機会を設定するとともに、1ヶ月後など一定期間において、忘れるころを見計らって復習する機会を設定する。
- ④当該学年で学習したことだけでなく、前の学年の内容に取り組むなど、学年を越えて復習する機会を設定する。

### 2 下位層の児童・生徒がつまずいているところまで振り返り、学習支援をする

(1の④を更に具体化して)

ここで「オール北海道で目指す目標」第1期～第4期までの内容を整理すると・・・

期	小学校 国語	小学校 算数	中学校 国語	中学校 数学
第1期 まずは、 これから	決められた字数で書くことができるよう	たし算、ひき算、かけ算、わり算ができるよう	理由や根拠を明確にして書くことができるよう	方程式を解くことができるよう
第2期 まずは、 これから	目的に応じて読み内容の大体を理解することができるよう	四則の混合した式の計算や割合を求めることができるよう	目的や意図に応じて読み、中心となる内容をとらえることができるよう	関数関係を見いだし表現することができるよう
第3期 まずは、 これから	決められた字数で書く、学習した漢字を正しく書くことができるよう	四則計算や割合を求める能够するよう	理由や根拠を明確にして書く、小学校で学習した漢字を正しく書くよう	方程式を解くことや関数の式で表すことができるよう
第4期 いっそう確実に	条件に応じて書くことや学習した漢字を確実に書くことができるよう	四則計算を確実にすることができるよう	条件に応じて書くことや小学校で学習した漢字を確実に書くよう	方程式を確実に解くことができるよう

・・・となっています。

さらに第5期では、各学校で重点的に取り組む必要のある領域や学習内容を独自に設定し、今後の指導に生かしていくことを提唱しています。

具体的には・・・

私の学校の第5期		学校	
重点とする領域など	国語では	算数・数学では	
重点とする学習内容	すべての子どもたちが、確実に ことができるようになります	すべての子どもたちが、確実に ことができるようになります	
必ず定着させる 指導事項等	国語		算数・数学
	1年	1年	
	2年	2年	
	3年	3年	
	4年	4年	
	5年	5年	
	6年	6年	
全校での取組			
私の取組	私は、 を担当（担任）しているので に取り組みます		

・・・このような表に整理して取り組んでいくと良いでしょう。

### 3 国語の指導におけるポイント

(第4期の目標を中心にして)

全ての小学生に求められているのは、「条件に応じて書くことや学習した漢字を確実に書くことができるようになります」ですが、そのためには各学年の指導事項を確認し、言語活動を通して、学習内容を確実に身に付けることが大切です。

【1・2年生】では、「絵日記や発見カード、手紙」などを活用した学習活動から、「目的に応じて読み、内容を大体理解する」学習を進め、「決められた字数で書くことや学習した漢字を正しく書く」ように指導を進めます。

【3・4年生】では、「報告や学級新聞、説明、依頼状、案内状、札状」などを活用した学習活動から、「中心となる語や文、段落相互の関係や事実と意見の関係」を理解できるように学習を進め、「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係を注意して書く」ように指導を進めます。

【5・6年生】では、「俳句、隨筆、意見、推薦、宣伝、ポスター」などを活用した学習活動から、「要旨を捉え、明確な自分の考え」を述べられるように学習を進め、「目的や意図に応じ、調べたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書く」ことができるよう指導致を進めます。

また、学年に応じて、30字、60字、100字、120字、200字など、様々な字数のワークシートや原稿用紙を準備し、書く活動において活用したり、主語や述語の関係で、文のつながりが分かりやすいか、学習した漢字を正しく使っているかなど、書いたものを振り返り、よりよい表現に書き直す習慣を身に付けることも大切です。その際に、国語辞典などを積極的に利用できるような環境や機会を充実させる学習を進めていくことが大切です。

同じように、全ての中学生に求められているのは、「条件に応じて書くことや小学校で学習した漢字を確実に書くことができるようになります」ですが、中学校において、小学校で学習した内容を基礎・基本しながらも、各学年の指導事項を確認し、言語活動を通して、学習内容を確実に身に付けることが大切です。

【1年生】では、「鑑賞、説明、記録、案内、報告」などを活用した学習活動から、「中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などの読み分け」などの学習を進め、「目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く」ように指導を進めます。

【2年生】では、「詩歌や物語、意見、手紙」などを活用した学習活動から、「文章の論理の展開の仕方」を理解できるように学習を進め、「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫してわかりやすく書く」ように指導を進めます。

【3年生】では、「批評、新聞やパンフレット」などを活用した学習活動から、「文章の論理の展開の仕方」を考えられるように学習を進め、「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く」ことができるよう指導を進めます。

また、学年に応じて、100字、120字、200字など、様々な字数のワークシートや原稿用紙を準備し、書く活動において活用したり、自分の考えが効果的に伝わるか、表記や語句の用法、段落相互の関係は適切か、感じを正しく使っているかなど、書いた文章を読み返し、文章を整える習慣を身に付けることも大切です。また、抽象的な概念を表す語句や慣用句、四字熟語などを話や文章の中で適切に使用するような機会を充実させることが大切です。

しかし、授業時間だけで下位層の児童・生徒を支援しながら、学級全体の指導を進めていくのは不可能に近いものがあります。そこで、必要になってくるのが授業時間以外での学習支援や家庭学習の充実です。

### 3 朝学習や放課後学習、家庭学習で学習の仕方を身につける

(1の②を更に具体化して、今までの指導経験から)

下位層の児童・生徒に共通する課題は、学習習慣や自分に合った学習の仕方が身についていないことがあります。その課題を克服するためには、まず学習の習慣化を図るために、担任(教科担任)から宿題を出すことが有効です。

宿題は・・・

- ① 毎日出す
- ② 定着状況に応じて個別に宿題を出す
- ③ 土日や長期休業時に、定着度の低い問題をまとめて出す
- ・・・などが考えられますが、家庭とも十分に連携しながら、保護者の協力も得て学習の習慣化をつけることが大切です。

学習の仕方を身につけさせるためには・・・

- ① 家庭学習専用ノートやファイルを用意して取り組ませる
  - ② 宿題への取組状況や内容を評価するとともに学習方法も助言する
  - ③ 間違えた問題を朝学習や放課後学習で繰り返し指導する
- ・・・などが考えられますが、この取組の中で大切なことは、学習方法が自分に合っているのかを気づくことです。

学習習慣と学習方法が少しずつついてきた小学校高学年頃からは、自分自身で自分の生活リズムをつくる「1週間の日課表」の取組も有効です。これは、自分の毎日の生活を自分自身で管理する力を育てるための取組の1つですが、最初は、あまり無理のかからない計画（例えば、家庭学習時間を毎日30分から始めるなど）から始め、3ヶ月毎に少しづつ自分を高める計画（学習時間を15分ずつ伸ばしていくなど）に移行している事が大切です。

この習慣が身についてくると、中学校に入学後にも、定期テストや学力テスト前に実施すると効果的な「テスト2週間前計画表」も取り組むことができるようになります。この習慣が身に付くと、いざれば計画表がなくても、自分の頭の中でイメージした計画に沿って家庭学習ができるようになり、学習習慣がさらに確立されます。